模擬授業研究会の斉藤メモ(2019 年 11 月 14 日)

授業者：〇〇
範囲：持続可能な社会

主な感想・代案

- 絵本を使ったユニークな授業づくりで、授業者自身の工夫を感じられる場面が何度もありました。生徒との関わり方も優しさを感じます。
- この授業の導入がどこなのか、学習課題（主発問・めあて）が何なのかが伝わりにくかったです。というか、インパクトを残そうという意識が弱かったように思います。現状であれば、絵本を読んでから、それに関連するような学習課題を提示した方が、流れがすんなりと行く気がします。これは小さい話ではなくて、生徒が「今日の授業のねらい」を意識できずに授業をすすめてしまうというのは、学習の効率性を考えても、もったいない点だと思います。
- 絵本の話が十分に生かされていないように感じました。絵本とその後の話があんまり関連していないように見えてしまう。そこを何とかしたいですよね。

→ 私だったら、絵本のストーリーを軸にこの授業を創ります。ワークシートには、最初の頃のちいさなおうちと、絵本終わりころの小さなおうちをワークシートの左端と真ん中に配置し、その変化を裏付けるような形で、簡単に歴史的事実を紹介します（産業化・工業化など)。その上で、「小さなおうちのその後」と題して、現代だったらどうなっているのか？それはなぜか？を問うような授業にしてはどうでしょうか？その考えを述べ合う際に、現代につながるような歴史的事実についても補足的に紹介する。そうすることで、絵本を軸にしながら、授業構成できます。

→ 絵本の語りきかせ方に関しては、教材の準備の仕方やムードの作り方によって、もっとインパクトを残せたように思います。ぜひ更なる工夫を考えてみてください。

【コラム】理論と実践の接点

〇〇さんの授業では、絵本を使ったユニークな授業展開が面白かったですが、紙芝居や物語仕立てにしたストーリーの中で、生徒に考えさせるような授業はこれまでにも多く提案されています。こういう授業を「シミュレーション学習」などとも言います。いまの普通の日本の日常ではない、他の感覚や設定を考える際に、特定の設定の中で考えることは有効です。代表的なものの一つに『ひょうたん島問題』という移民をめぐる社会問題を考えさせるような教材もありますし、『もし世界が 100 人の村だったら』のワークショップ版もそういう感じの特徴があります。

こういったシミュレーション学習を行ううえで重要なのは、「この学習の目的は何なのか？」という点を意識することです。活動や設定自体が面白いものになってしまうと、往々にして学習の目的が置き去りになることがあります。

そういう意味で、今日の〇〇さんの授業は、絵本を有効に使えていたのか？目的と合うように活用するにはどうすべきだったか？などは検討の余地がある点だと思います。

【参考文献】藤原孝章(2008)『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」』
山口幸男(1999)「新・シミュレーション教材の開発と実践―地理学習の新しい試みー」